

# Lesson 2 基本的なデジタルカメラの撮り方

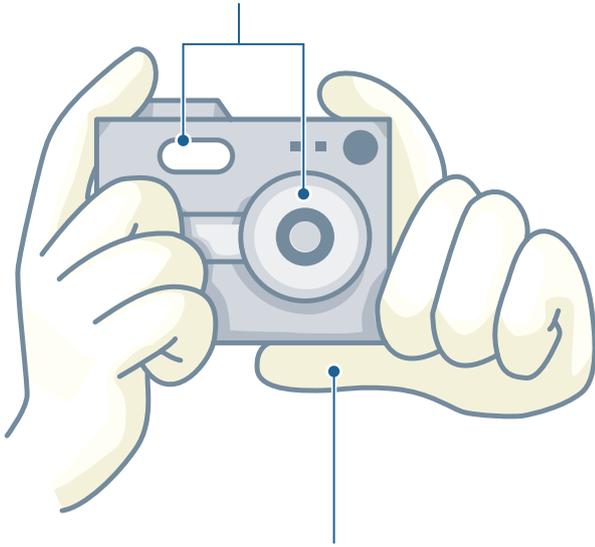
## 1 デジタルカメラの持ち方

デジタルカメラで撮影するときは、デジタルカメラを両手でしっかり持ちましょう。

デジタルカメラは手のひら全体を使って持ちます。こうすることで、シャッターボタンを押す瞬間にデジタルカメラが動いてしまうのを防ぐことができます。

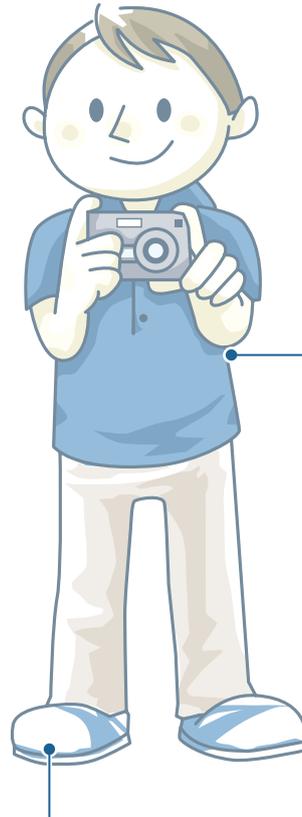
### ●フラッシュやレンズに指が掛からないように持つ

※ デジタルカメラを縦に持つときは、デジタルカメラのフラッシュが上側に来るように持ちます。



### ●両手でしっかりと固定する

●デジタルカメラの付属品にストラップがある場合は取り付けておく。首や手首に通しておく、デジタルカメラの落下を防ぐことができる



●両脇をしめる

●足を肩幅程度に開き、少し膝を曲げたり足を前後に開いたりして下半身を安定させる

## 2 写真撮影の3原則

失敗写真とはどのような写真のことでしょう。被写体にうまくピントが合っていないピンボケ写真や、撮影時に手ぶれ(撮影者の手が動いてぶれてしまうこと)や被写体ぶれ(被写体が動いてぶれてしまうこと)でいい表情が撮影できなかった写真、逆光で顔が暗くなってしまった写真などが失敗写真の例といえます。そのような失敗を防ぎ、上手に写真を撮影するには3つの原則があります。

- 被写体にピントを合わせる
- 手ぶれを防ぐ
- 光の向きを考える

この3つの原則をマスターできていれば、失敗のない写真が撮影できます。



## 被写体ぶれ

被写体がペットや小さい子どもなどの場合、予測できない動きをするため被写体ぶれが発生してしまうのはある程度仕方のないことです。被写体ぶれしそうな場合は多くの写真を撮影しておき、その中からいいものを探すという工夫をすることも必要です。

### 3 被写体にピントを合わせる

上手に写真を撮影する1つ目の原則は、「被写体にピントを合わせること」です。

ほとんどのデジタルカメラにはオートフォーカス(AF)機能が搭載されており、自動的に画面の中心にあるもの、または手前にあるものにピントが合うようになっています。そのため、被写体が中心から外れていたり、後方にあたりする状態で撮影すると、ピンボケしやすくなります。



手前の花にピントが合い、被写体の子どもがぼけています。



被写体の子どもにしっかりピントが合っています。

ピント合わせのコツは、シャッターボタンを途中まで軽く押す「半押し」です。シャッターボタンを半押しすると、合わせたピントを固定しておくことができます。

#### 1 被写体を液晶画面の中心に合わせる

被写体にピントを合わせたあと、液晶画面内での被写体の大きさは変更できません。被写体を液晶画面の中心に合わせるときは、液晶画面内の被写体の大きさにも注意しましょう。



1

2

3

4

5

6

7

参考学習1

参考学習2

付録

索引